

ついでに ミニネットコーナー

ミニネット
No.8

仲間と学ぶ意義を教える

自分以外の友達のおかげで力を伸ばせたという実感をもたせませす。新学年のスタートの時期に有効です。

①封筒の中に数字を書いて入れ、封をしておきます。(ここでは、書いた数字は「123」とします)

②「この封筒の中の数字を当ててもらいます」と言いまします。子どもたちは「えっっ!」「わかるはずないじゃん」などと文句を言いますが、構わず誰かひとりを当てます。

③「35」などと適当に言うでしょうから、「うーん、まだ遠いなあ」と返します。「他に答えを言える子?」と聞きます。次に「100」と答えたら「おしい!」、「142」なら「あ、行きすぎた!」などと、ヒント混じりの返答をしていきます。すると、最後には「123」と言い当てるでしょう。

④「なぜわかりもしない数字を当てることができたのですか?」と問います。「次々答えを言って、正解との『遠さ』がわかってきたから」とか、「友達が間違ってくれたから、そのたびに正解に近付くのがわかった」という答えが出たら成功です。

⑤今のように間違いを恐れずに発表し、友達の話をしっかり聞きましょう。それが、教室で仲間と共に間違いながら勉強をしていく意味なのです」と締めくくります。



イラスト | 吉田朋子